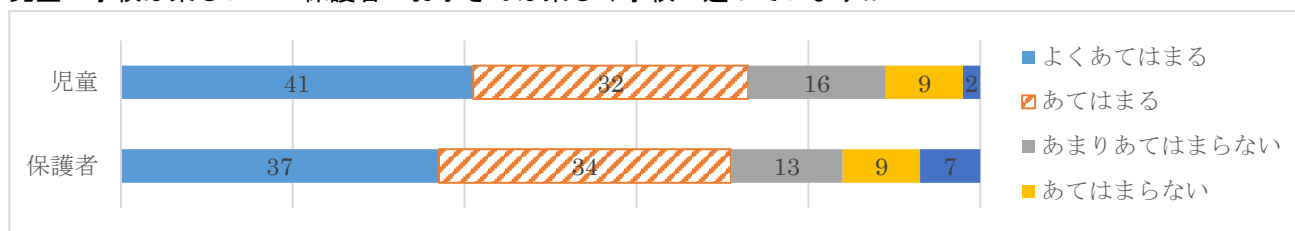


令和6度白浜小学校 学校評価アンケートのまとめ

1 豊かな心と健やかな体を育む

(1) 豊かな心を育み、楽しい学校生活を送る

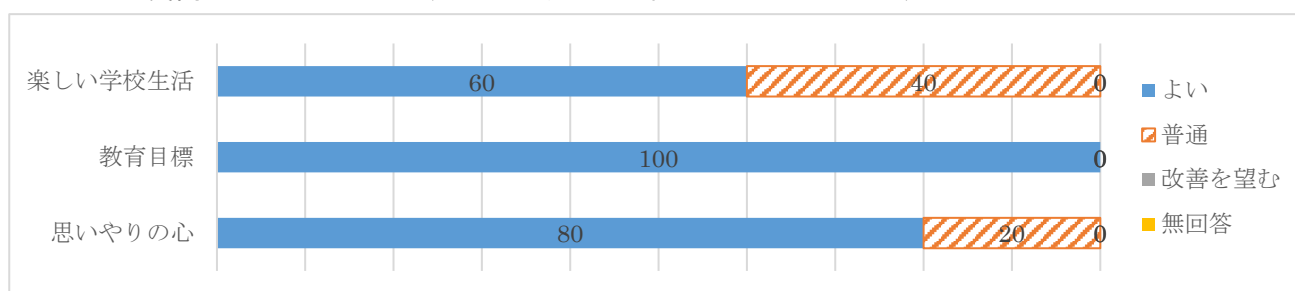
児童：学校は楽しい 保護者：お子さんは楽しく学校へ通っていますか



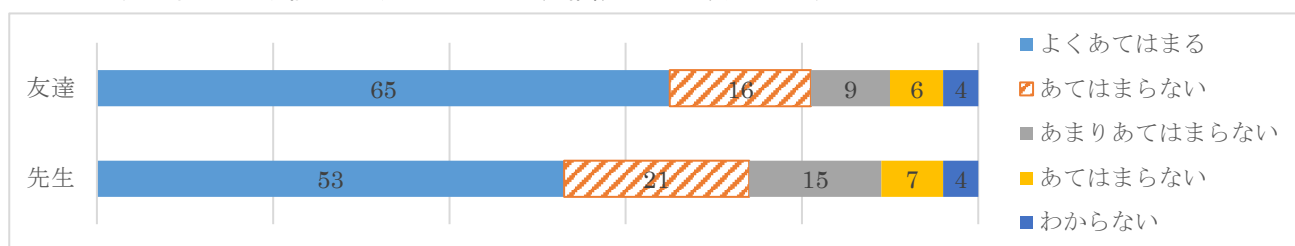
学校評議員質問A：子どもたちは明るく楽しい学校生活を送っていると思いますか

質問B：本校の教育目標は子どもや地域の願いをふまえた目標になっていると思われますか

質問C：子どもたちは、思いやりの心が育っていると思いますか

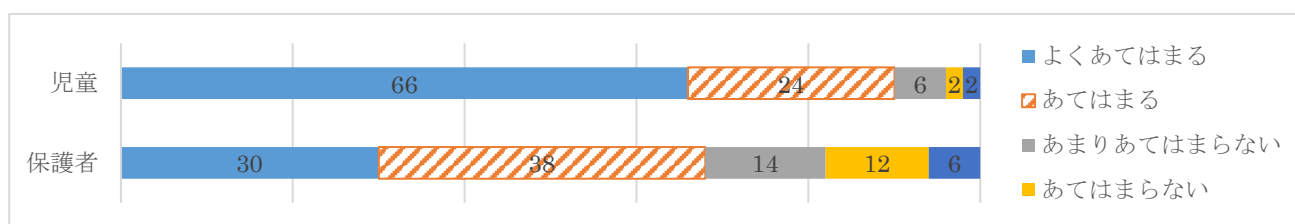


児童：自分が困ったり悩んだりしたとき、相談できる友だち・先生がいる



児童：道徳の授業は大切だと思う

保護者：学校は、子どもの心を育てる道徳教育や児童会活動を実施していると思いますか



「学校は楽しい（児童）」「学校に楽しく通っている（保護者）」の問いに対して「よくあてはまる・あてはまる」と回答した児童が72%、保護者が71%であった。子どもたち、保護者ともに昨年度の回答よりも下がっている。校訓「明るく、仲よく、たくましく」を目標に楽しい学校となるように取り組んできたが、楽しくないと思っている子が3割もいる結果となってしまった。子どもたちにとって楽しい学校になるように子どもたちの様子をよく見て声をかけ、一緒に活動をするなどの改善策を考え、努力をしていきたい。

また、「自分が困ったり悩んだりしたときに、相談できる友達がいる」と回答した児童は81%、「相談できる先生がいる」は、74%であった。このことから友達関係も概ね良好に築かれていると

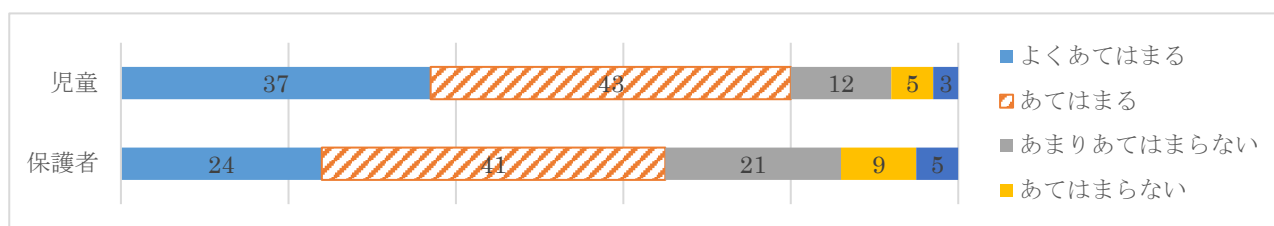
言える。しかしながら、相談できる先生に対しては、昨年度より下がっている。日々、子どもたちの様子をよく見てきていたつもりであったが、まだまだ足りないことが分かった。子どもたちにとって、楽しく、安心できる学校となるよう、子どもたちに寄り添い、子どもたちの声をしっかり聴いて支援をするに努力していかなければならない。

学校評議員へ白浜小学校の教育や子どもたちの姿について質問をしたところ、昨年同様、90%以上の方から「よい」または「普通」と評価いただくことができた。

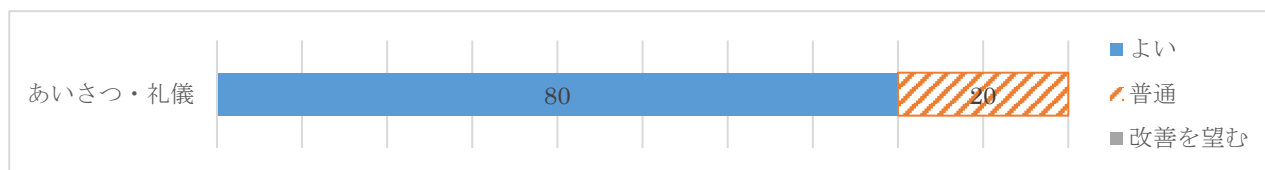
一方、道徳の授業は大切と思っている子どもは90%いる。また、保護者の68%が学校は心の教育を実施できていると回答している。子どもにも丁寧に寄り添い、一人一人を見つめ、子どもたちの状況に応じた道徳教育の充実を図ることが大切であると考えている。

(2) すすんであいさつをする

児童：家族や地域の人に自分からあいさつします 保護者：お子さんは自分からあいさつができますか



学校評議員：積極的にあいさつをするなど礼儀正しい態度が育っていると思われますか



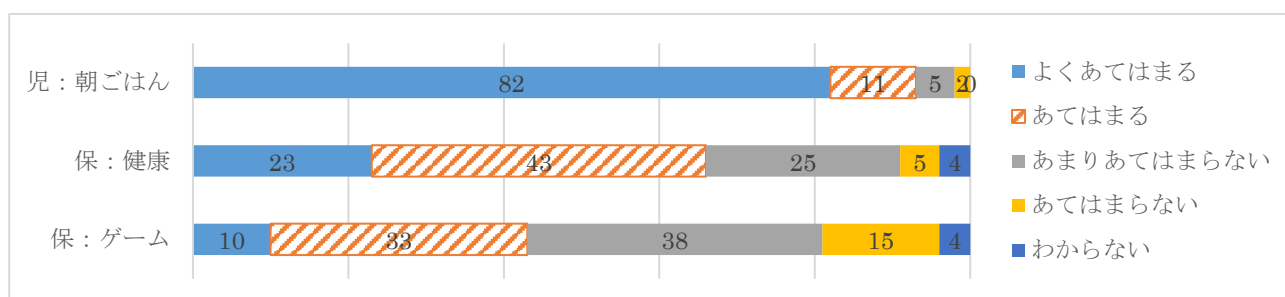
あいさつについて、「できている」と回答したのは、児童が80%、保護者が65%である。学校評議員は80%が「よい」と回答している。この結果から、子どもたちはあいさつはできていると思っているが、今年度も保護者はあいさつをもう少しがんばってほしいと思っていることがわかる。学校評議員からは、昨年に比べ、あいさつがよくなっていると言っていたが、「コロナ前のあいさつと比べるとまだまだ」とご指摘いただいている。できたらほめる、あいさつされてよい気持ちになったことを伝える活動を続け、この方法が根づくよう実践を続け「いつでも」「どこでも」「だれにでも」元気なあいさつのできる白浜っ子をめざし、支援を続けていきたい。

(3) 健康的な生活

児童：朝ごはんを食べますか

保護者：子どもは早寝早起き朝ごはんなどの健康的な生活が送れていますか

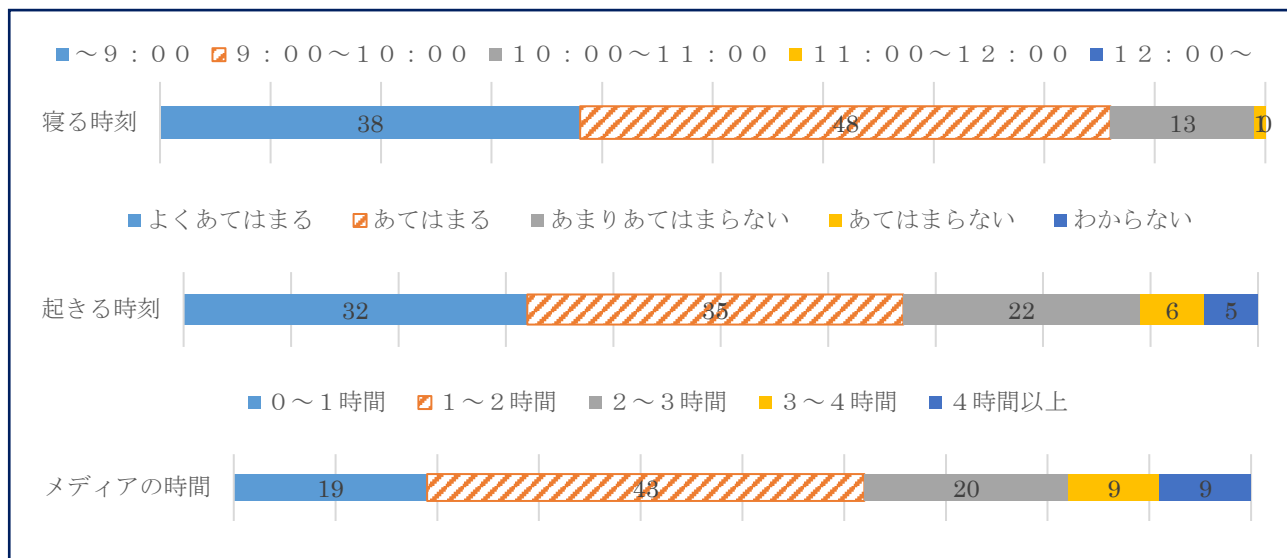
保護者：ゲームスマホの決めた時間を守れますか



児童 質問A：何時に寝ますか

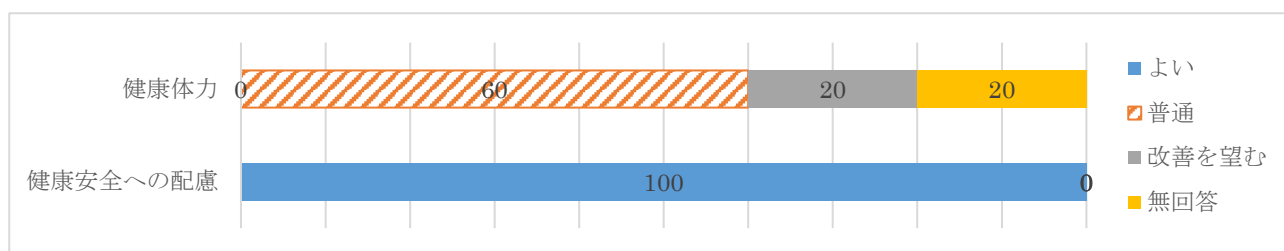
質問B：いつも決まった時刻に起きることができますか

質問C：テレビやゲームの時間は1日に何時間ですか



学校評議員 質問A：子どもたちは健康で体力ある子に育っていると思われますか

質問B：学校は子どもの生活態度や健康安全について、よく配慮していると思いますか



保護者の66%は子どもたちは健康的な生活ができているとしている。学校評議員の回答からは、学校の健康安全への配慮はされているが、子どもたちの健康体力がついているについては、60%が普通で、改善策を考えなければならない。

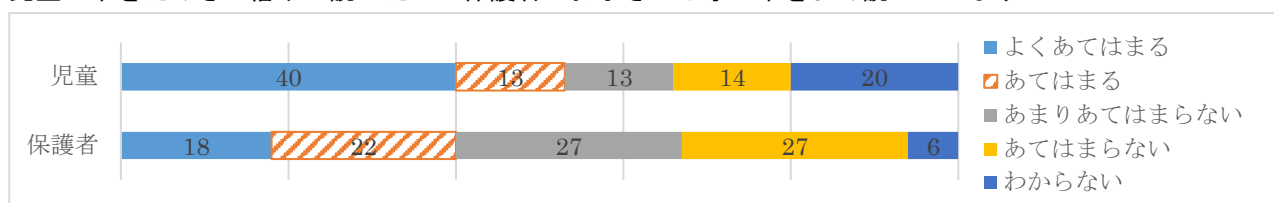
子どもたちに寝る時刻等と聞いてみると、昨年とあまり変化はみられず、11時以降に寝る子もいる。起きる時刻も、決めた時刻に起きることができない子がいる。また、スマホ、ゲーム、テレビなどのメディア機器を使用する時間について、毎日2時間以上行っている児童が40%近くいる。「ゲーム等の時間を守っている」と回答する保護者は43%で、昨年と同じくらいの割合である。気になる点として、児童の93%は朝食を「必ず・ほとんど食べる」と回答しているものの、年々「必ず食べる」と答える児童が減っている。本校の児童は、これまで朝食はきちんとって学校に来ていたので、当然できていると思い、生活習慣の課題は、睡眠やメディアに対するものととらえていた。しかし、今回の結果を受け、生活習慣全般を含め、指導をしていかなければいけないと感じた。養護教諭を中心に健康的な生活づくりの指導を行ってきたが、睡眠について、メディアについてと1つのことに特化したものではなく、全般的に注意喚起をし、よりよい生活習慣となるようにしていきたい。保護者と協力をし、学校では、健康的な生活ができるように知識を与え、家庭で実践できるように啓発をしていきたい。今後も子どもたちが自分の健康は自分で管理できるよう、指導の継続をしていきたい。

また、校舎の老朽化に伴い、環境面の安全対策にも気を付けていきたい。

(4) 読書活動

児童：本をたくさん借りて読んだ

保護者：お子さんは家で本をよく読んでいますか



読書活動については、図書室の本をたくさん借りて読んだと回答した児童は53%で、「家で子どもが読書に親しんでいる」と回答した保護者は40%となり、昨年に比べ若干減少している。

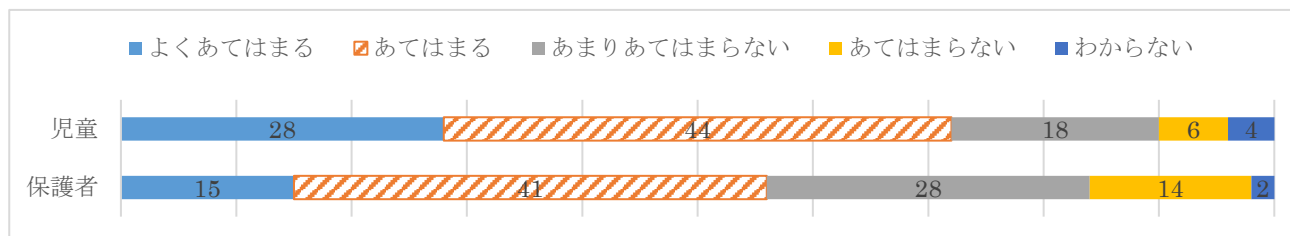
学校では昨年同様、読書タイム、図書ボランティアさんによる読み聞かせなど、読書に親しめる環境づくりに努めている。また、学校司書が中心となり、図書ボランティアさんの協力も得て、積極的に魅力ある図書室作りや読書指導などに取り組んでいる。加えて、図書委員の児童によるお勧めの本の紹介やお楽しみイベントなどを催し、多くの子に来てもらえる図書室となるように取り組んできた。しかし、読書に親しむ子が少ないのが現状である。朝の読書タイムの時間を有効に活用し、教員が本の楽しさを伝えたり、学校司書、図書ボランティアさんの協力を得て、図書室に行きたくなるイベントを開催していただいたりして、子どもたちを本に親しめるよう努力していきたい。

2 確かな学力を育む

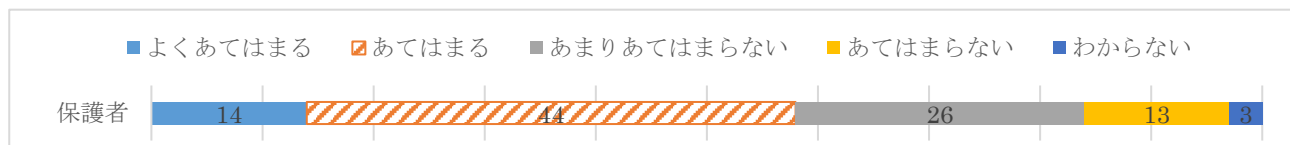
(1) 授業の取り組み

児童：授業は分かりやすく楽しい

保護者：お子さんは授業が「楽しい・わかる」と言っていますか



保護者：お子さんは授業の内容が理解できていると思いますか



学校評議員：教職員は熱意をもって子どもに分かりやすい教育活動を行っていると思われますか



「授業が分かりやすく楽しい」と回答したのは、児童は72%、保護者は56%である。また、「お子さんは授業の内容が理解できていますか」の問いに「あてはまる」と回答した保護者は、58%である。これらは、昨年度に比べ減少している。学校評議員からは「教職員は熱意をもって子どもに分かりやすい教育活動をしている」との評価をいただいているが、児童、保護者の回答から、厳しい状況であることがわかる。前述の1(1)「学校は楽しいですか」の回答も減っていることから、子どもたちにとって、分かりやすく、楽しい授業づくりが急務である。

経験年数の浅い教員が増える中、どの教員も日々の授業準備、現職研修ともに、一生懸命行っている。どの教員も努力をしているが、成果としては表れていない。加えて、今年度より、研究が始まったが、方向性が定まっておらず、中途半端な形になり、教員はやりにくかったかもしれない。日々の教育実践を価値あるものになるよう、研究の方向性を定め、一人一人の授業力の向上できるよう研修を行っていく。子どもたちが「できた!」「わかった!」「もっとやってみたい!」と笑顔で言ってくれる楽しくてわかる授業をめざしていきたい。

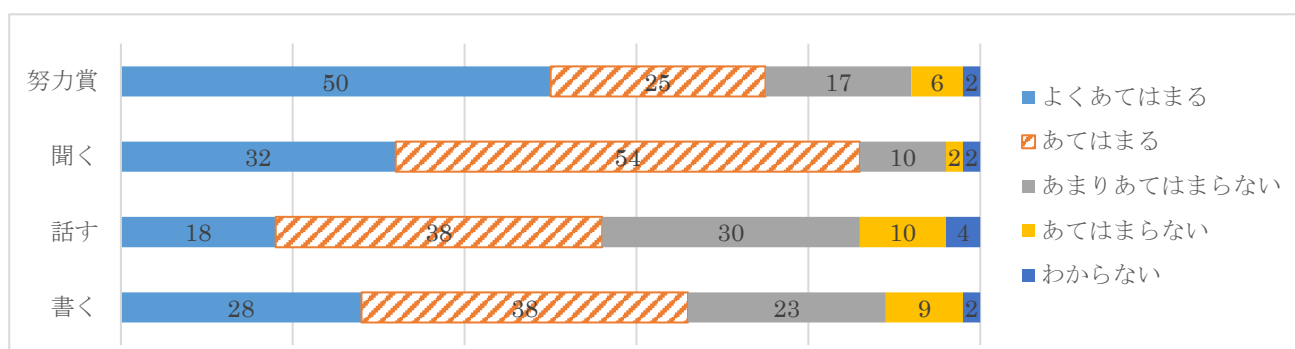
(2) 基礎基本の充実

児童 質問A：努力賞テストで勉強できた

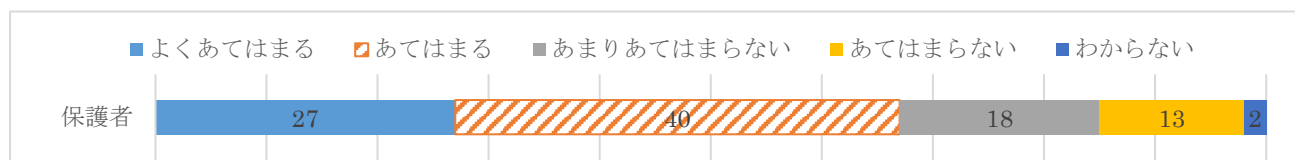
B：先生の話をしっかり聞いている

C：分かりやすく話すことができる

D：自分の意見をしっかりと書くことができる



保護者：お子さんは、漢字・計算の努力賞テストに向けて家庭学習に取り組んでいますか



努力賞テストへの取り組みについて、「できている」と答えたのは、児童は75%、保護者67%で、児童は昨年と同じだが、保護者は昨年に比べて増加している。昨年度同様、努力賞テストを全校同じ日に行い、前日をノーメディアデーにした。学校、家庭で協力して取り組んだ結果、努力賞テストに対する家庭学習への取り組みが定着しつつあるように感じる。今後も学習方法についても示し、子どもたちが自ら取り組めるようにしていく。

また、「聞く・話す・書く」のうち「話す」ことが他の項目に比べ低い結果が出ている。この傾向は、ここ数年変化していないが、今年度は「書く」も昨年度より減少している。これまで、自分の思いに自信がないため話すことができないのではと考えていた。「書く」もできないという結果から、そもそも自分の思いをもつことができない子がいるのではないかと考えた。自分は、自分の思いをもつこと、そして、次の段階として、どう表現するかを支援をしていきたい。

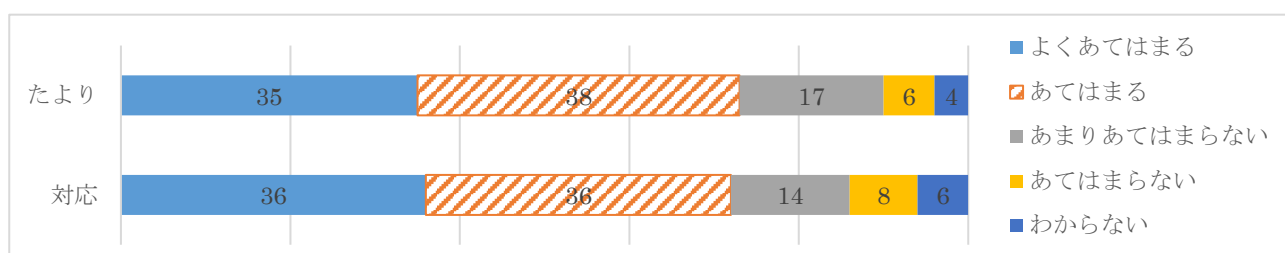
「聞く・話す・書く」力の伸長を含めた基礎・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成をめざし、ICTの活用もはかり、楽しくわかる授業の実現、個に応じた学習指導の充実ができるように一層の努力を重ねていきたい。そのために、現職研修の充実を図っていく。

3 家庭・地域との連携を深める

(1) 家庭・地域との連携

保護者質問 A：学校は白浜小だより・学級だより等で学校の様子を分かりやすく伝えていますか

B：学校は家庭地域からの連絡や相談をていねいに対応していますか

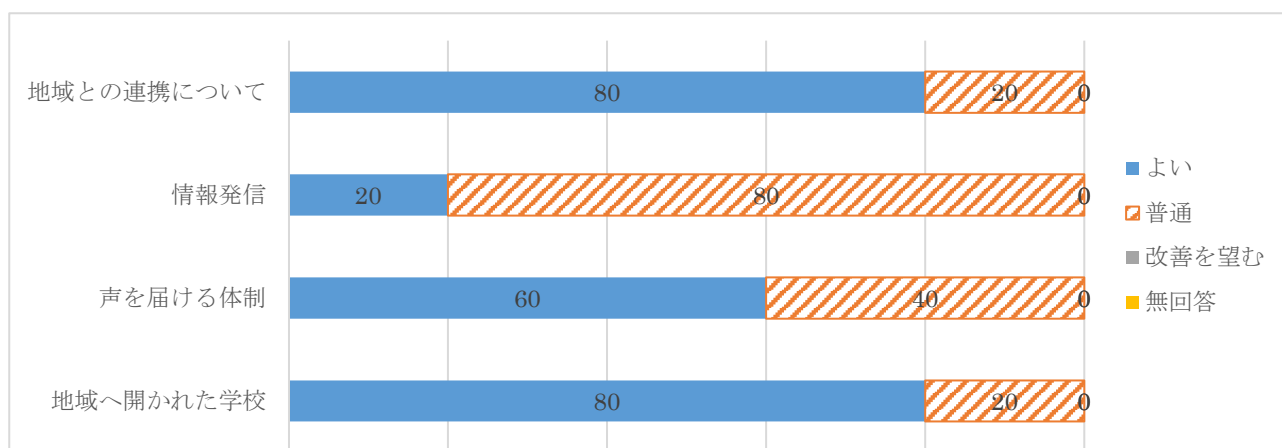


学校評議員：質問 A 学校と地域の連携について学校の働きかけは十分だと思いますか

質問 B 学校だよりや学年だよりなど学校からの発信は十分できていますか

質問 C 教育について地域の願いや声を届ける体制できていると思いますか

質問 D 学校は保護者や地域の教育力を生かし、開かれた学校づくりを進めていますか



家庭・地域への情報発信として「白浜だより」や「学年だより」「PTA新聞」「ブログ」を発行している。これらについて、保護者 73%、学校評議員 75%が「発信できている」と評価をいただいたが、昨年度より減少している。今年度も昨年同様ブログを更新して、学校の様子を伝えているが、昨年度よりブログの配信回数が減ってしまった。「ブログをよく見ているよ」「去年よりブログが少なくてちょっとさみしいよ」との声もいただいている。保護者や地域の方に学校の様子を知っていただくよい機会ととらえ、たよりの発行やブログの更新を続けていきたい。

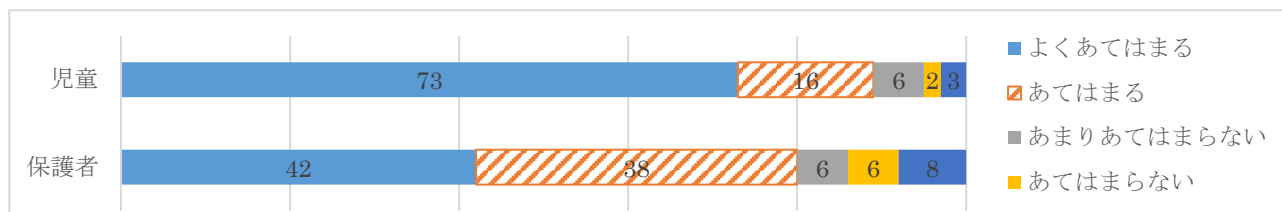
また、「連絡や相談への対応」については、保護者の 72%が丁寧に行っていると回答している。しかしながら、22%の方が対応の改善を求めている。下校時刻の変更、行事の案内など連絡が不十分なところがあったと反省している。保護者への対応も、丁寧に行ってきたつもりであるが、不十分な点もあったかもしれない。この評価を真摯に受け止め、丁寧な対応に心がけていく。

学校評議員からは、改善を望むご指摘はない。しかしながら、昨年度と比べると、4つの観点どれもが「よい」の評価が減少している。先述のブログに関連し、特に情報発信は、大きく減少している。また、情報発信だけでなく、声を届ける体制の改善も昨年度からの課題となっている。保護者、地域の方からの声に丁寧に対応し、家庭・地域との連携した白浜小学校となるよう、努力をしていきたい。

(2) 防災教育

児童：地震津波から自分の命を守る学習や訓練に真剣に取り組んでいる

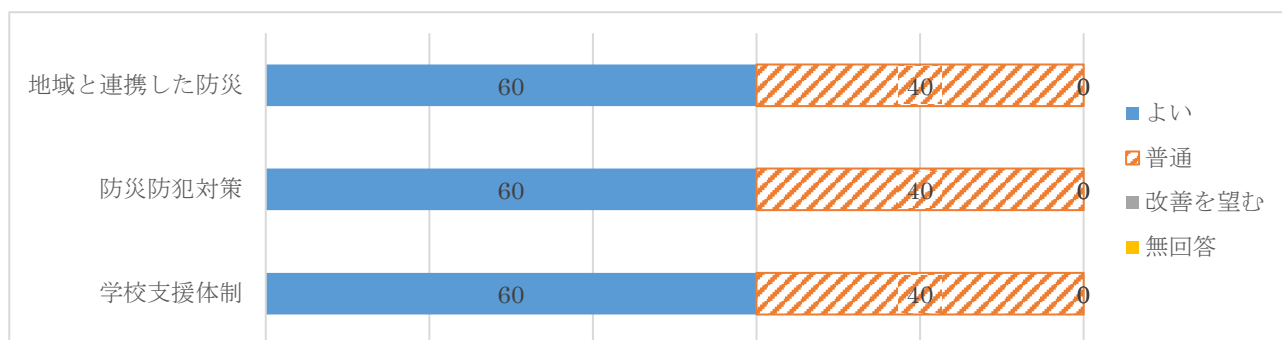
保護者：学校は、子どもが自分の命は自分で守る防災教育を実施していると思いますか



学校評議員：質問A 保護者と連携した防災活動はできていると思いますか

質問B 地震・津波や不審者に対する安全対策や安全教育は十分なされていると思いますか

質問C 安心安全や学校教育活動に対する学校支援体制は整っていると思われますか



白浜小学校の防災教育の取り組みに関する項目については、児童、保護者は、大きな変動はない。学校評議員の方は、改善を望む声はないものの、「よい」は減少している。

今年度も6年生の防災リーダーは様々なところで活躍していた。下学年に防災を教える活動や防災集会の準備など、白浜小学校の防災活動の中心的役割を果たすことができた。今年度は、昨年度から引き継いだ「雨の日の避難」にも力を尽くしてくれた。避難訓練を予定していた日は、おおむね晴れた日が多かったため、6年生の考えた避難訓練はできなかったが、宮崎地区への3次避難経路ウォークの日は、小雨が降ったりやんだりの日になった。雨天時の取り組みまではいかなかったが、昇降口で傘をとって避難することを行うことができた。

今年度のもう一つの新しい取り組みとして、今行っている避難が本当によいのか危機管理課の方に見ていただき、ご指導を受けた。子どもたちの避難の仕方は、静かに、素早くできていてとても良いと評価いただいた。一方、避難路に関しては、土砂崩れ、避難路の安全性等、改善すべき点をご指摘いただいた。また、近隣の白浜保育園、吉良高等学校と連携した避難訓練も行い子どもたちが一緒に避難する方法を避難路を含めて考えていく必要があることの確認もした。

昨年度、防災教育の研修会において「昔のままの避難訓練で大丈夫か」との視点を与えられた。そこで、今年度は、より実際にイメージし、子どもたちの状態、白浜地区の現状に合わせた避難訓練、防災教育を考え、実践してきた。改善すべき点は多々あるが、今後も、家庭、地域と連携した防災学習のあり方、自分の命を守り、つなぐ防災活動のあり方などを探りながら、白浜小学校の防災教育の継続と充実を図っていきたい。